

東京富士美術館 名曲コンサート

ネパールから～ヒマラヤの風

日時: 12月17日(土) 18:00～19:00 会場: 東京富士美術館  
出演: パンチャ ラマ (バンスリ) … 竹の横笛  
サラワン ラマ (タブラ、マーダル) … 打楽器

内容: 空に一番近い“ヒマラヤ”の国より、山々に響き渡るバンスリの音色と太鼓の響き。祭りを楽しむ民族舞踊。ネパールの魅力満載「チョウタリバンド」によるコンサート。自然の持つ空気的美しさを、感じてください。  
曲目: 地上の楽園、川、タマン、タツパ(ダンス)、海のさざ波、タイコの響き、祭、ジムラ(ダンス)、レッスンフィリリ

— チョウタリとは —

“チョウタリ” (CHAUTARI) は、ネパール語で「山を行く旅人達が、ひとときくつろぐ休憩所」の意味。そこは、必ず大きな木があり、鳥のさえずりに満ちています。村人達が集い、時には遊牧民達が歌を歌ったり笛を吹いたりする場所でもあります。チョウタリバンドは、そんな“チョウタリ”を目指しています。

— バンスリについて —

バンスリは竹の横笛で、バンブーフルートとも呼ばれ、古来インドやネパール音楽では中心的な楽器です。西洋のフルートの原形といわれ、その「柔らかい素朴な音色」は、民族音楽の粋を越え人々を魅了します。



●パンチャ ラマ (バンスリ奏者) Pancha Lama

1970年ネパール・サララヒに生まれる。幼少の頃から音楽や民族舞踊に親しみ、14歳でプロとなり“バンスリの天才”と称される。ネパールを代表するミュージシャンとして、テレビ・ラジオを始め、その演奏・レコーディングは、数千曲にもおよぶ。インド・台湾・タイでもコンサートツアーを開催。94年来日。以来、東京を中心に全国各地で演奏活動。「大阪・花博」「国際協力フェスティバル」「淡路島・花博」等に招待演奏。テレビCMにも出演。96年《チョウタリ バンド》(ネパール人と日本人の混合バンド)を結成。1stアルバムCD『チョウタリ』は、今なおネパールの人々に愛されている。ジャンルを越えたセッションで、世界のミュージシャンと共演。02年2月には、さだまさしのCDにも参加。02年よりネパールの子どものための「チャリティコンサート」を開催し、収益金でネパール・サララヒの小学校を建設。03年1月のネパール小学校建設式典では1万人が参加した。以降毎年、コンサート・CD収益金の一部を、学校維持費用に寄付している。06年1月には、デビュー20周年記念コンサートを故郷のサララヒで開催する。

ヒマラヤの大地に育まれた彼の音楽は、“大らかで素朴”“自然や空気的美しさに満ち溢れている”と、日本でも圧倒的な人気を誇る。

CD: 1st.アルバム「チョウタリ」CHAUTARI … ネパールで皆に愛されているCD。6曲目はパンチャが日本で初めて海を見た時の曲。  
2nd.アルバム「ジャルナ(瀧)」JHARNA … ヒマラヤの山並みを渡る風をイメージ。様々な民族打楽器を取り入れた独特の音色。  
3rd.アルバム「ヤトラ(旅)」YATRA … 旅をイメージ。1曲目の朝の息吹は日の出と共に女の人が水を汲みに川や湖へ〜ネパールの朝のはじまり。  
4th.アルバム「プレイ(祈り)」PRAY … ネパールの伝統楽器・伝統音楽を取り入れた、どこか懐かしいような、新しいサウンド。

●サラワン ラマ (タブラ奏者) Shrawan Lama

1993年にネパールの首都・カトマンドゥへ上京し打楽器の勉強を始め、97年「カジノ・アナ」での演奏をきっかけにプロ活動を開始。98年イラバード サンギート マハビダラヤ大学院・音楽科を卒業し、コンサート、ラジオ・スタジオのレコーディングで活躍。01年来日。以降、兄パンチャ ラマと共に日本で活動。02年リリースのさだまさしCDにも参加。

ネパール多民族の持つ“数百通りのリズム”に精通し、その技術は「目にも止まらぬ指さばき」「人が対話しているよう」と評されている。ネパール音楽に留まらず、世界のミュージシャンとも意欲的に共演している。

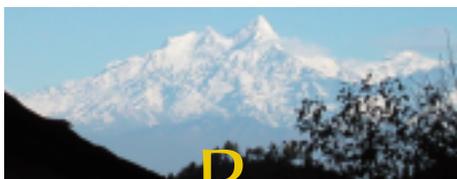


●河西 堅(ギター) かさい●けん

数多くのロックバンドを経て、独学でギターをマスターする。後にワールド・ミュージックに目覚め、ハワイやマダガスカルなど「島の唄」に傾倒する。02年女性シンガーZuluと組んだカルト・ヒーリング系ユニットによる「ZULUKEN」をリリース。様々な楽器を駆使したスタイルで活動中。



●コピラ ラマ(ネパール民族舞踊) Kopila Lama



E U R O P E  
Présentation exceptionnelle de divers musées et collections venues d'Europe : France, Italie, Allemagne, Russie, Belgique, Autriche...  
Exposition, Napoléon et le XXI<sup>e</sup> siècle — Napoléon, l'Europe et la culture : une autre conquête

